

セキュリティ一分野での先端技術の関わり(下)

分とはいえない。

国際社会経済研究所
(NECグループ)主任研究員



課題は情報共有

6月にイステエルのテルアビブ大学で開催されたサイバーセキュリティーの国際会議「Cyber Week 2018」には、世界80カ国から8000人以上の関係者が集まつた。印象的だったのは、多くの講演者が今後の課題に情報共有を挙げた点である。業界大手のチェック・ポイントのドール副社長は、「情報共有は、攻撃の方法やコンテクストを共有しなければ意味がない。しかし、それはとても煩雑であるため、多くは攻撃を受けた結果だけ共有する」と現状を語った。見学したベンギリオン空港では、3年前にサイバーフィジカル攻撃に備えてITとOT

ンターを構築していく。しかし所属機関以外との情報共有は、ほぼないという。攻撃側はダークウェブなどを通じて活動の連携を深めているとされるが、我々防御側の連携は十分でない。スマートコントラクトと暗号通貨による報酬で、世界中のセキュリティ専門家が自由に参加できるマルウェア分析のアウトソーシング市場を創ろうとしている。セキュリティ専門家が協力して分析

ホワイトハ
ッカーと連
みで海外の
ルの向上だけではなく、
人材不足の解消にもつ
なるだろう。
もつとも、サイバー
エンジンを構築し、関
係者間で情報共有する
姿を、同社は描く。ま
たセキュリティー専門
家の地位を向上させ、
経済的な理由で攻撃側
セキュリティー分野の

利用されており、その有用性が証明されている。もちろん、ブロッケチエーンは全ての問題を解決するわけではないが、その期待は大きい。

哲学者など)の専門家が議論を重ねて、セキュリティツールの開発やガイドanzづくりにつなげている。「サイバーセキュリティは単なる技術的問題ではない」と言われる中、

A black and white photograph showing a man in a suit standing in front of a large, horizontal wall-mounted display. The display features a world map with numerous flight paths highlighted in red and blue. Below the map is a large digital board displaying flight information, including departure and arrival times, flight numbers, and destinations. In the foreground, the back of two other individuals is visible as they sit at a desk equipped with multiple computer monitors, likely air traffic controllers or flight dispatchers.

ベンギリオ
ン空港内に
あるセキュ
リティーオ
ペレーショ
ンセンター
は、その高い完全性と
可用性を生かした、デ
ジタルデータや I·O·T
(モノのインターネット)
ト) のセキュリティ
ーでは、Sociot
echnical S
ecurity Gr
oup (社会技術セキ
ュリティーグループ)
を設置して、従来の
対策を柱と併用する。
「技術的な問題解決」

ブロツクチエーンで防御

社会との関わり

「先端技術との関わり方のヒントになるかもしない。」
（金曜日に掲載）